



### 1 田検小・須古小学校の始まりは、いつでしょう？

さて今回からは、学校創立に関するヒストリアです。古い資料（学校沿革史や創立百周年記念誌）によると、田検小学校・須古小学校の歩みを整理してみると下表のようになります。

<須古小は現在の「元気が出る公社堆肥センター」の奥。芦検小の場所は分かっていません。ご存知の方、教えてください。>

明治13年 (1880年)	芦検小学校（初等科・中等科）を設置。 【改正教育令に基づく】
明治15年	湯湾小学校（初等科・中等科）と田検小学校（初等科・中等科）を設置。
明治19年	田検小学校を廃止し、芦検簡易小学校、湯湾簡易小学校を設置。 【小学校令に基づく】
明治25年	田検尋常小学校を設置。 【改正小学校令に基づく】
明治28年	田検、芦検、湯湾を一校区とする田検尋常小学校となり、1学年二学級編制で開校する。児童数が85人。 (芦検簡易小学校と湯湾簡易小学校を田検尋常小学校に統合する。)
明治29年	須古尋常小学校が12月開校。須古と部連が校区となる。(その後の須古尋常小学校の名称変更に関する資料は、探し当てることはできていません。)
明治32年	田検尋常小学校の名称が古仁屋高等小学校田検分校となる。
明治35年	古仁屋高等小学校田検分校の名称が田検高等小学校となる。
明治36年	田検高等小学校の名称が田検尋常高等小学校となる。
明治38年	部連に、須古尋常高等小学校の分校を置く。
明治40年	部連校が、須古尋常高等小学校から独立する。
明治43年	部連校を、須古尋常高等小学校に統合する。
昭和16年	名称が、田検国民学校、須古国民学校となる。
昭和23年	名称が、田検小学校、須古小学校となる。
昭和42年	田検小学校に須古小学校を統合する。児童数389人(合計)。

つまり、「田検小学校の始まりは、明治13(1880)年に設置された芦検小学校」なのです。その年から数えて今年が133年目になります。

133年の歴史の中では、今から46年前の昭和42年、須古小学校が田検小学校に統合されたのです。

### 2 須古小学校が、田検小学校に統合された頃は、どんな様子だったのでしょ？

終戦後、須古小学校と田検小学校に教諭として勤務され、その後再び田検小学校に校長として赴任された鎮原照治（しずはらてるじ）先生の「在職時の追憶」（昭和55年11月11日発行『創立百周年記念誌』に所収）を紹介しましょう。

鎮原照治先生は、定年までの9年間（昭和42年度～昭和50年度）田検小学校の校長を務められた方です。つまり、須古小学校が田検小学校に統合された初年度の校長先生です。以下「在職時の追憶」より抜粋。

田検小学校への二度目の赴任は、昭和42年4月でした。人事異動も一段落し、龍南中で次年度計画に没頭していた三月末日(31日のこと)に、田検小への唐突な転勤命令。須古校が田検校に統合したので、当時各地で頻発していた学校統合に伴うトラブルを、須古校区出身者に経営させることで、緩和しようという当局の意向によるものでした。<…中略…>

統合される側(須古校)にとっては、親子孫数代にわたる母校との惜別の非情と、統合後の未知なる運命への不安は堪え難きものであったことでしょう。統合当初は旧須古の父母が、結果や如何と、(田検小に)毎日のように授業参観にみえたものでした。

私も当然相当なトラブルに関与するものと覚悟して赴任したものでしたが、いささか拍子抜けする程の順調さで軌道に乗ったのです。トラブルと言えるものとしては、遠距離通学になった部連の児童のスクールバス問題ぐらいのものでした。それも長田教育長が、夜間に幾度も部連に出向かれて、父兄側・学校側三者の誠意ある話し合いを進め、奄美交通との度重なる交渉によって、逐次解決されました。そして、1学期も終わりに近づく頃には、早くも旧須古校の児童たちは各学級の中に溶け込み、田検校の児童になりきっていたのでした。

このような県下でも稀有(めったにない)とも言うべきスムーズな学校統合が行われたのは何故だろう。その理由と考えられることを幾つか思い起こしてみよう。……

この続きは、第5号に記述します。一体、どういう理由で、強い不安感や感情的なもつれのないスムーズな学校統合となったのでしょうか？次号をお楽しみに。(文責：福田裕生)